

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2570500062
法人名	株式会社 アイエスアイ
事業所名	グループホーム さくら苑
訪問調査日	平成 19 年 11 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 22 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570500062		
法人名	株式会社 アイエスアイ		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	東近江市聖徳町4-23 (電話) 0748-23-8798		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2F		
訪問調査日	平成 19年 11月 5日	評価確定日	平成 19年 11月 22日

【情報提供票より】(平成19年10月17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 兼務 1人, 非常勤 8人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,040 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1100 円	

(4) 利用者の概要(10月17日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青葉病院 市立蒲生病院 井田歯科東診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の(株)アイエスアイは、「さくら介護サービス」(居宅介護、訪問介護)と同じ敷地内で運営している。グループホームさくら苑は最寄駅から車で5分の市街地にあり、自然の残る田園地帯にある。開設4年半のきれいな木造平屋の1ユニットで、広々とした前庭とテラス、そして野菜畑もある。内部はバリアフリーのリビングと多目的スペースは広く、和室でもくつろげる。入居者別の日誌や介護記録も詳細に記載され、入居者の各自の好みに合わせて適切なケアが行なわれている。職員の明るさと声掛けでホームの雰囲気は明るい。今後はより一層、理念に基づき地域に密着したホーム運営を目指してほしい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は地域への運営理念の啓発・広報の強化であったが、地元町内会や行政及び家族との連携をはかり、啓発講座や研修会を開催するなど取り組み改善を行っている。今後は運営理念を全職員が理解して工夫したサービスを行なえばさらに運営改善につながる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者が行いスタッフ会議で確認をしている。職員全員で話し合いながら点検した結果を自己評価に反映し、評価に対する改善課題への取り組みを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2カ月毎に開催し、一環としてさくら苑見学会も実施している。外部の人々にホームの運営内容を理解して頂き、意見交換も行なう中で改善課題を把握している。その課題については職員会議で対策などを考えてホームのサービス向上に活かしている。今後さらに地域での暮らしを支えるという観点で地域及び家族との連携を強められることを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とは月1回以上は面談の機会を持ち玄関には意見箱も設置してある。また定期検診時にも入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などを家族に報告している。馴染みの職員の異動や職員の採用及び退職者の情報はさくらだよりなどを活用して報告することを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事の盆踊りへの参加や保育園との交流も行っている。今後は更に地域の一人として馴染み、自治会行事なども連携して積極的に参加し体験入苑や見学会などにより交流を深められることを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現理念に基づき家庭的な環境でその人らしく暮らせるケアは実践されている。しかし、介護保険制度改正(H18)による地域密着型サービスとしての役割を見直した理念に具体化出来ていない。	○	制度改正の趣旨を生かし事業所の理念も「地域との関係重視」「地域住民との交流強化」の考え方を謳った具体的な理念の策定と実践を検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎月のミーティングで理念に即したケアについて話し合いと確認を行っている。		母体組織の理念(方針)そのままではなく事業所独自の具体的な理念として職員が共有できるように、掲示や唱和などを行なうことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りに参加したり、保育園を訪問したり地域との交流に取り組んでいる。また運営推進会議の一環としてさくら苑の見学会を開催している。		自治会に加入し情報の入手に努めるとともに密接な連携をとり、地域住民の一員としての活動や役割を担っていく努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価及び外部評価を活かして運営理念の啓発・広報など具体的な改善に取り組んでいる。今年度の自己評価は管理者が作成し職員会議で確認しているが、全員参加の策定にはなっていない。		自己評価は作成段階で全職員が参画し、職員から出された評価を積み上げた結果を反映する工夫や取り組みを望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定例的(2ヶ月に1回)に開催し地域・家族・行政の各代表が参加している。改善課題について討議するとともに、研修会も開催して実践に役立てている。内容は職員全員にフィードバックをしてサービス向上に活かしている。		地域及び家族の代表の方々との意見交換や適切な課題の選定などを行ない会議の充実を図ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の自治会に行き行事参加の相談をしたり、市の窓口に行き行事の確認やサービス向上に向けた課題解消の相談をしている。		市の担当者との連携をさらに深めて積極的に情報収集を行ない運営やサービスの向上に役立てることを望む。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時を含み月1回以上は家族と面談して「さくらだより」を渡して運営報告している。健康状態や日常の様子及び金銭出納も報告している。		管理者、職員の異動について「さくらだより」にも掲載して家族への報告と入居者に不安を与えない対策を考えてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に聞き出す努力をしている。玄関には意見箱も設置され、入居説明書類には公的機関の苦情窓口も明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を保つようにしているので職員が交代する場合は引き継ぎ期間を十分取り、入居者への影響を最小限となるようにしている。		運営者は入居者と身近な管理者や職員が離職に至らないように更に日常の話し合いやコミュニケーションを深める努力をされることを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会に参加するとともに、実践に役立つような啓発講座を設定し苑内研修として実施し、レベルアップを図っている。		個人別の育成計画をキチッと年間計画として位置づけ、公的な外部研修に派遣する場合と自己のスキルアップの研修との区別を明確にして、入居者へのサービス向上に活かしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は市の専門部会に参加して地域の同業者と交流する機会をもっている。また相互訪問などを通じて情報交換を行ないサービスの向上に取り組んでいる。		ホーム運営に関する諸問題の解決やサービス向上のために、より多くの学習会や研修及び交流を図ることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には体験入苑をして頂き、馴染めるかどうかを確認して家族と本人も納得した上で入居を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の特徴や得意分野を活かしながら日常生活の掃除、洗濯、食事の片付けも一緒にしている。その中で共に生活する同士として喜びも哀しみも感じ合うとともに、共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者別の日誌に気づいた点を常に記録している。都度確認しながら日常のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族からの要望や意見及び日々の気づいた点は個人別の介護日誌に記録して、介護計画に反映している。個人のケアや改善策について職員会議で話し合っ介護計画を作成している。		日常の中で入居者の変化に注視し、医療機関とも相談しながら個人に合った介護計画の実践を望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況を家族と相談しながら検討見直しを随時行っている。変化が生じた場合は入居者と家族、関係者と話し合い見直しを行なっている。		入居者や家族の状態変化を常に介護計画に反映するために、定期的(3カ月毎)に見直しを行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に応じて、かかりつけ医への受診や買い物送迎などの要望に対して事業所の多機能性を活かして柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な健康診断やケガの治療は事業所の協力医に受診すると共に、入居前からの馴染みのかかりつけ医の治療も受けられるように家族と相談しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族の大きな関心事であるが、話し合いのキッカケがつかめない為、話し合いが出来ていない。	○	高齢の入居者もおられるので、早期に家族との話し合いの機会をつくり、対応の基本的な考え方について繰り返し確認し、意志確認書の作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けなどはしないようにするために、職員には研修を行い、意識向上を図っている。個人情報記録は別室の棚に保管している。		個人記録などはプライバシー保護の観点から重要保管扱いにすることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のリズムに合わせるとともに一人ひとりの体調や思いに配慮しながら支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューに畑の野菜も使って調理をしたり、日替わりランチを作ったり、好みも取り入れている。職員と一緒に後片付けをしている。食事中はケアしながらなので食事を一緒にとっていない。	○	職員と入居者が同じテーブルで家庭的に皆で楽しく食事する雰囲気づくりは人間関係作りの点からも大切であり、入居者と一緒に食事を摂るよう工夫されることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず一人ひとりの気持ちや習慣に合わせるなど入居者の希望に合わせた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしを楽しく役割も持てるように苑内敬老会、お楽しみ昼食会を行なうとともに、日常的に楽しく貼り絵をしたり、野菜づくりもして気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や一人ひとりの気分や希望に合わせて、散歩や公園に出かけたり、馴染みの店に買い物に行くなど戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない暮らしの大切さを認識し実践している。日々の見守りを含め入居者の行動をきめ細かく把握しており、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については日頃の災害訓練を定期的に行っていない。地域との協力体制も構築できていない。	○	災害対策のマニュアルを作成し、定期的な避難訓練や地域との協力体制及び消防署の協力を得た訓練の実施を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の献立採用で栄養バランスは考慮されており食事残量の確認を行なっている。また水分の摂取状況は夏はペットボトルで摂取チェックするなど大まかに把握している。		食事や水分の摂取状況の記録及び調理をする時に塩分などの調味料の調整も行うことを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作った貼り絵や季節の花などを玄関や多目的ホールに飾っている。また音楽も流れてテレビを見ながら居眠りできるぐらい、ゆとりを感じるような工夫をしている。	○	廊下及び居間の一部の照明が昼間でも暗いので改善を期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの個々人の生活スタイルに合わせて、使い慣れたタンスや身の回り品や飾り物などを持ち込み、その人らしさのある居心地の良い居室づくりに配慮している。		